

往時を思えば・・・・

2月上旬、男子日本サッカー代表と女子アイスホッケーをTVで観戦する機会があった。

サッカーの解説者には中山ゴン氏が選ばれていたのだが、氏が言う、「(相手の)パスがアバウト過ぎて、却って守備をし難い」・・・・ン?! それほど日本のサッカーのレベルが上がっている。香川にしても長友にしても、世界レベルであることを証明してきている。香川など、ボク好みの選手で、上体も動かさず音もなく水が流れるようにスルスルとゴールに向かって走りこむ。シュートでもパスでも目が離せない。長友のダイナミックな走り方も悪くはないが、本田のように「ドタドタ」と走る選手は、ボクの美意識からかけ離れている。Jリーグで探せば、なかなかいないのだが、家永がよく似ている。スポーツでも武道の達人でも、その動きは流れるようで、一種「舞い」を観ているようである。

彼らの素晴らしいところは、まったく物怖じすることなく、平素の力を存分に発揮しているところである。オリンピックなどで、プレッシャーに負けた、などと表現することが多いが、サッカー界の選手たちには当てはまらない。緊張は当然生き残りをかけて試合に出場しているのだからあるはずであるが、そういうプレッシャーをも力の根源にしている点である。

比較の対象でもないが、先日トヨタの高級車レクサスに乗せてもらう機会があったのだが、音もなく走り出す。まったく雑音がなく助手席に乗ってもきわめて快適で、帰りのタクシーのクッションと思わず比較してしまった。全然乗り心地が違う・・・・

サッカーも世界的に注目されるようになった。Jリーグができて20年。その前の実業団リーグと比べてずいぶんとレベルアップしたものだが、当時ドイツにプロ留学した奥寺康彦氏がみなおされている。現在はさらにレベルがあがっていて、昔のサッカーを知るものからみれば、隔世の感がある。ボールをトラップしてすぐ傍におとそうとするが、大きく跳ねてむざむざ敵に取られてしま

う。「サッカーは不器用な連中がするものだ」と笑っていたことを思い出す。

女子アイスホッケー、ついに初めてオリンピックに出場することを確実にした。前回は前回もあと1勝、あと1点に泣いてきた。「今回に限り」、アイスホッケー協会が遠征費を負担してくれるという。バカじゃなかるか！何をいまさら。アルバイトに明け暮れて、それでもホッケーが好きで、誰に頼まれたわけでもないのに自己管理をきちんとしてきた。(なでしこジャパンの女子サッカーでもワールドカップで優勝するまでは、そうだったという。)アイスホッケーでいうなら、前回は遠征費を負担してやればもっと練習できたのではないか。協会なんか、なんの役にもたたなかったではないか。連盟などあるなどとは思わなかった。それほど冷遇されてきた。今回の快挙は、**すべて彼女たちの努力**に起因する。……彼女らは、精神的にもしっかりしている。3点先行されても、粘り強く逆転した。

もっと腹立たしいことがある。移動に際して、役員はビジネスクラスで選手はエコノミークラスなどというのは本末転倒で、誰が身体を張って頑張って勝利に導いたのか、わかっていない。

アイスホッケーは、まとまったチームでおこなう競技の中でもっともスピード溢れる競技である。猛スピードで衝突する(ぶつかり合う)から体力の消耗も激しい。……そして強化費も少ない。

このスピード溢れる氷上の格闘技からみれば、カーリングなんか、あんなもん、リンクの上をモップで掃除してるだけやないか！

もう30年か40年か、あるいはもっと以前かもしれないが、男子アイスホッケーがソ連と戦ったことがあって、「試合」というよりソ連のシュート練習をみているようなもの。なにせ、当時のソ連は、**NHL**のカナダのプロと戦って3勝4敗で惜敗し、カナダのプロを慌てさせたほどのチームである。当時のゴールキーパーの大坪選手が**79**本のシュートをブロックした。そして「世界最高の名キーパー」と揶揄された。隔世の感があります。

アイスホッケー協会も手の掌かえすようなやつつけ仕事ばかりせずに、予算があるはずなのに十分な遠征費・強化費をあげて欲しい。どうせ税金じゃないか。自分が懐を痛めるわけでもないのに。……サッカー協会も同じ。協会や

連盟というのは、邪魔しかししない存在と思われている。

TVや新聞も、こんなときだけ大はしゃぎする。こいつらもわかってへんわ。

2013.02.14.

この文章をオープンにしようとしていたら、マンチェスター・ユナイテッドの香川がハットトリックで大騒ぎ。日本のみならず、現地のTVや新聞でも最大級の賛辞を送っている。間違いなく、彼は世界レベルの選手であることを証明した。例によってマスメディアは、「アジア人初の」ハットトリック、などと戯けたことを言うが、現地人でもハットトリックは困難だ。無意味な表現はいらない。2点目など、解説者の山本昌邦さんが表現したように「ゴールにパスをするようなやわらかいタッチ」でのゴールである。いかにも香川が冷静であることを示している。3点目にいたっては、彼自身が得意のシュートであるが、相手を嘲笑うようなスピードと判断力である。……当分この話で盛り上がることだろう。

2013.03.03.